

米 原 市 統 計 書

令和6年(2024年)版



米 原 市

市 章

まちづくりビジョンである「自然きらめき ひと・まち・ときめく 交流のまち」―一人が元気 まちに活力 風土に愛着のまちづくり―にふさわしいデザインをと全国から募集したところ、県内外から総数 1,749 点もの作品が寄せられました。米原市の“マ”をモチーフに、歴史や産業文化と豊かな自然（人・水・緑）と生き生き共生し、輝かしい発展・繁栄する「米原市」の明るい元気な力強い姿をイメージし、アピールしています。



米原市非核・平和都市宣言

私たちのまち まいばら には
青い空と緑にはえる山々
清流のせせらぎ
みのり豊かな田園
母なるめぐみの湖（うみ）がある
まちかどや広場には
子どもたちの歓声が
若者たちの歌声が
軒先からは人々の
静かな語らいがきこえてくる
遠く海をこえた かなたにも
同じ人々のくらしと
しあわせがある
しかし 今
地球をおおう核の脅威は
あらゆる命のいとなみを破壊し
かけがえのない平和を
一瞬にして 奪いさろうとしている
私たちは 知っている
核兵器が
生きとし生けるもの
すべてを破滅しつくして
何も もたらさない

私たちは 知っている
すべての人間が手をつなぎ
平和な明日に向かって
力をよせあうことが
どんなに大切で
すばらしいかを
悲慘なヒロシマ ナガサキの体験から
核兵器を「持たず 作らず 持ち込ませ
ず」の
非核三原則を全世界に訴え
戦争の放棄 恒久の平和を誓った
平和憲法を
私たちは 守ります
人々の明日にとって
子どもたちの笑顔が
若者たちの明るい未来が
いきいきとした命のいとなみが
永遠に続くことを願っている
私たちは 訴えます
核を持つすべての国々に
すべての核兵器を 今 すてよ！ と
この市民の声と 願いを
世界に広く訴えるため
ここに米原市は
「非核・平和都市」を宣言する

平成 17 年 6 月 24 日

米原市人権尊重都市宣言

私たち米原市民は人が人として幸せに生きるまちをつくります。

それは人権尊重のまちであり、世代を超えて住み続けられる魅力あるまちです。

私たち一人ひとりがかげがえのない存在であり、自らの人権を自覚し、お互いの人権を大切にします。

私たちはふれあいの心を深め、子どもからお年寄りまですべての人が輝き、生きるよろこびに満ちたまちづくりに努めます。

私たちは子どもたちに大きな希望を持ち、子どもたちがすこやかに成長できる人権尊重のまちをつくります。

私たちは米原市を人権尊重都市とすることを宣言します。

平成 18 年 9 月 29 日

米原市交通安全都市宣言

豊かな自然 水と緑に恵まれ

古くから交通の要衝として栄えた 私たちのまち まいばら

私たちの暮らしの繁栄は 人々の往来とともにあった

しかし ちょっとした油断から

悲しい現実が後を絶たない

前方不注意 無理な追い越し 無謀な運転・・・

一瞬の気の緩みが 家族の絆を奪い去る

ささいな過信が 大切な人の夢や希望を打ち砕く

それは他人事（ひとごと）ではなく

悲しい現実 は 誰にでも起こりうる 起こしうる

原因は 私たちの心の中

身近なところに隠れている

だからこそ 今 その現実を直視し

私たちは

心にゆとりと緊張感をもって

交通ルールを守り

交通安全に努めます

私たちは
命の大切さをかみしめ
家族のため 自分自身のため
そして かけがえのない命を守るために
交通安全に努めます

私たちは
子どもたちやお年寄りに手を差し伸べ
思いやりの心 感謝の心 小さな配慮をもって
交通安全に努めます

私たちは
地域 企業 行政 そして市民が
手と手を取りあい
誰一人として 事故に遭わせない 事故を起こさせない決意をもって
交通安全に努めます

ここに 米原市は「交通安全都市」を宣言し
すべての人々の命が輝く
安全で安心な住みよいまちを創ります

平成 21 年 3 月 27 日

米原市気候非常事態宣言

気候の変化が私たちの生活に大きな危機をもたらそうとしているのに、私たちはまるでどこか遠くの問題として見過ごしていないでしょうか？

最近の伊吹山では雪がほとんど積もらない年もあれば記録的な大雪になる年もあります。気温がとても高くなり、激しい雨による洪水が世界各地、日本全国で毎年のように発生しています。異常気象はもはや日常化しつつあります。これは地球の気候が大きく変わってきたためです。

私たちの生活に欠かせない乗り物を動かしたり電気を生み出したりするために、石油や石炭、天然ガスなどを燃やすと二酸化炭素が排出され地球が暖められ、その結果、洪水や熱波、異常気象を引き起こしているのです。

今を生きる私たちは、これまでの歴史の中で最も難しい状況に直面しています。地球の温暖化を止めるという歴史的な偉業を成し遂げられるか、それとも、地球の温暖化を進めてしまったと非難されるかの分岐点に、私たちはいます。

今こそ私たち一人ひとりが地球の温暖化に対して行動することが必要です。

私たちは、山や森林とともに暮らすことのできる米原らしい環境を世代を超えて守るため、最も急がなければならないメッセージとして、気候非常事態を宣言し、次の活動に取り組みます。

2050 年までに地球の温暖化の原因である二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指します。

伊吹山、霊仙山から琵琶湖へとつながる水と緑を守ることで、二酸化炭素の吸収源である山林を守り、命を育む大切な水を人々に届けるという水源の里としての使命を果たします。

危機的な気候変動の状況および家庭でできる地球温暖化対策について、子どもたちを含む市民へ情報を提供します。

環境省の「脱炭素先行地域」に選定された事業を推進するとともに、脱炭素の取り組みを通じて地域システムそのものの変革を進めます。

令和 5 年 3 月 28 日